▒巻　頭　言▒

地方環境研究所の個性

愛媛県立衛生環境研究所長　　四　宮　博　人

昨年（平成25年）の11月26，27日の両日に本県で開催された第40回環境保全・公害防止研究発表会の際には，全国からお集まりいただき，あらためてお礼申し上げます。その折り全国の研究発表を聴きながら，地方環境研究所やその研究もさまざまな個性があると感じました。そこで今回は，当研究所の取組みを二つほど紹介させていただきます。みなさまの参考になれば幸いです。

まずはじめに紹介するのは，平成24年度から３カ年，当研究所を代表として実施している産官学連携の研究課題，「し尿汚泥等の焼却灰からのリン回収技術の開発研究」（環境研究総合推進費補助金研究事業）です。

本研究は，採掘コスト等の高騰により将来的にリン資源の確保が難しくなるという観点から，従来廃棄されていたリンを多量に含むし尿汚泥等の焼却灰から硫黄酸化細菌を用いたバクテリアリーチングによってリン酸を溶出し，吸着能・選択性の高い吸着材を用いてリン酸カルシウムとして分離回収することを目標としています。最終年度である今年度は，これまでに得られた基礎研究データを基に，ミニプラントをし尿汚泥処理場内に設置し，し尿焼却灰や細菌培地を連続的に投入し，安定的にリン酸カルシウムを回収するための連続運転管理技術を検討しているところです。

３年にわたる本研究事業を通じて，幾多の困難に遭遇しながらも，共同研究機関である愛媛大学や民間企業の熱心な協力が得られ，当初予定していた研究内容を遂行することができました。なお，本研究事業は検討会委員として愛媛大学の田辺特別栄誉教授，本県環境創造センターの森田所長には多大なご支援をいただいております。

二つめは，平成24年度に当研究所内に新たに設置された「生物多様性センター」についてです。当センターは，希少野生動植物に関する調査や里地の生物生息環境に関する調査など生物多様性保全に関する調査研究を行うとともに，県内の絶滅のおそれのある野生動植物の希少性評価や生息・生育状況等を明らかにし，その保護対策を講ずるための基礎資料となるレッドデータブックの改訂作業を行っております。また，自然環境保全に対する県民の意識高揚を図るため，県内の自然環境団体とともに自然観察会を開催し好評を博しています。将来的には「生物多様性えひめ戦略」がめざしている「100年先も　いきものみんな　優しい愛顔（えがお）」でいられる社会に寄与できるよう，専門的な立場から支援を行う研究拠点として，鋭意取り組んでいきたいと思います。このような生物多様性に関する取組みは，全国的にも関心を持たれ，この１年間でも３都道府県から視察や問い合わせがありました。

昨年の環境保全・公害防止研究発表会の挨拶で紹介した「サイクリングしまなみ」に私も参加しました。約7300人の参加者が秋空のもと，青い海と島々が織りなす風景を楽しみながら走りました。私のコースは最長（111 km）で高低差があり，厳しいコースでしたが，何とか完走できました。途中走るにしたがって，瀬戸内海や島々を結ぶ橋などの風景が刻々と展開し，本当に美しいと思いました。このような日本の美しい環境を守るため，地方環境研究所の一員として，微力ながら邁進してまいりたいと思います。